高次脳機能障害支援モデル事業 中間報告書について

平成１３年度から３か年の予定で実施している「高次脳機能障害支援モデル事業」の中間報告書が、国立身体障害者リハビリテーションセンターにより取りまとめられた。今後、この中間報告書について、幅広く関係者の意見を聴くとともに、引き続きデータの収集・分析を行った上、平成１５年度末を目途に最終報告を取りまとめる予定である。

○「高次脳機能障害」は、一般に、外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指すものであり、具体的には、「会話がうまくかみ合わない」、「段取りをつけて物事を行うことができない」等の症状があげられる。これらは、日常生活において大きな支障をもたらす場合があるが、一見してその症状を認識することが困難であることなどから、国民や関係者の間に十分な理解が得られている状況にはない。

○　このため、具体的な支援方策を検討すべく、地方自治体及び国立身体障害者リハビリテーションセンターにおいて、「高次脳機能障害支援モデル事業」に取り組んでいるところであり、今般、中間報告書を取りまとめた。

○　この中間報告書においては、

(1)「診断基準案」を提示するとともに、

(2) リハビリテーション、社会復帰及び生活支援の「標準的なプログラム」を作成するための素材となる事例等を集約し、

(3) さらに検討を要する課題についても示している。

○　平成１５年度においては、中間報告書の都道府県等、関係機関・団体等への配布、ホームページ等への掲載、関係者の意見聴取等を行うとともに、引き続きデータの収集・分析を行った上、最終報告を取りまとめる予定である。

○高次脳機能障害支援モデル事業の実施状況

＜参加する地方自治体＞

以下の地方自治体が地方拠点病院等を指定し、高次脳機能障害を有する方の治療、リハビリテーション、社会復帰などのための支援を試行的に実践している。

（平成 13 年度から）

北海道・札幌市、宮城県、千葉県、埼玉県、神奈川県、三重県、大阪府、岐阜県、福岡県・福岡市・北九州市、名古屋市

（平成 14 年度から）

岡山県、広島県

＜国立身体障害者リハビリテーションセンター＞

高次脳機能障害を有する方に対し、

- 実際的診断及び治療を実施。
- 作業療法士や理学療法士などによる機能回復訓練及び社会適応訓練等を実施。

拠点病院等における症例に関する情報を集約するため、「地方拠点病院等連絡協議会※」を設置し、標準的な評価基準、支援プログラム等を検討している。

※ 地方拠点病院等連絡協議会の開催状況

（平成 13 年度）	第１回	平成 13 年６月 12 日
	第２回	平成 13 年７月 27 日
	第３回	平成 14 年２月 15 日
（平成 14 年度）	第１回	平成 14 年６月７日
	第２回	平成 14 年 11 月１日
	第３回	平成 15 年３月６日

＜予算額＞

平成１３年度予算額	１０４，０１０千円
平成１４年度予算額	１１２，２９０千円
平成１５年度予算額	１０４，１６８千円

＜　参　考　＞

「高次脳機能障害支援モデル事業 中間報告書」の概要

【はじめに】

○ 高次脳機能障害とは、
外傷性脳損傷、脳血管障害などの器質性脳病変の後遺症として、

- 記憶障害
- 注意障害（注１）
- 遂行機能障害（注２）
- 社会的行動障害（注３）

などの認知障害等を呈するものであり、

→ **高次脳機能障害**

○ これにより、日常生活や社会復帰に困難を来す者が少なくない。

→ **高次脳機能障害者**

○ したがって、これらの者を支援するためのサービス提供のあり方について、知見を集積する必要がある。

→ **高次脳機能障害支援モデル事業**

【現　　状】

○ 高次脳機能障害の症状は、一見して認識することが困難。

→ 「人が変わった」、「怠け者になった」等の誤解を受けるケースもある。

○ 当事者及び家族においては、

→ 相談や対応に関する情報が不十分

○ 医療・福祉関係者においては、

→ 「高次脳機能障害」への共通認識、サービス提供の指針がない。

→ 高次脳機能障害の特性に着目したサービス提供がなされているとは言い難い。

行政関係者、医療・福祉関係者など各方面の関係者による幅広い取組みが必要。

【調査概要】

国立身体障害者リハビリテーションセンター、１２自治体の地方拠点病院等において、高次脳機能障害を有することにより、支援の必要性が高いと判断された者に対し、試行的に訓練や支援等を実施しながら、基礎的データを収集・分析。

○ 調査期間　平成１３年８月２４日～平成１５年１月１４日

○ 対象者数　３２４名（うち、訓練対象者　１７３名、支援対象者　１６８名　重複あり）

○　全登録者の状況

- 平均年齢　　３３．０歳　（　20歳代：38.3%、30歳代：24.7%　）
- 性　別　　男性：７８%、女性：２２%
- 障害者手帳所持　　５０%　（　身体:46%、精神:10%、療育:２%　重複含む　）
- 原因となる疾患等　外傷性脳損傷　：８０%　(20歳代に多い)
  脳血管障害　　：１４%　(50歳代に多い)
- 身体機能の障害　　あり：６４%

○　高次脳機能障害の状況

- 症　状　　記憶障害：８８%、注意障害：７８%、遂行機能障害：７４%
  いわゆる社会的行動障害などの認知障害に属するもの：約５０%
- 検　査　－画像検査により、原因となる脳病変が明らかなもの：９２%
  －神経心理学的検査については、統一的に行われている検査法はなかった。

診　断　基　準（案）

○　訓練（リハビリテーション）の状況

- 主に利用する機関　病院：６２%、身体障害者更生援護施設：２６% ほか
- 効　果（調査期間中）　－注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害等は、５～１０%の者が改善。
  －記憶障害等は、大きな改善はみられず。
- 多くの職種が関わっている。

標準的訓練プログラム（案）・訓練事例集

○　地域生活における支援の状況

- 主に利用する機関　　病院：３８%、身体障害者更生援護施設：２８%
  身体障害者福祉センターＡ型：９%
  小規模作業所：９%、身体障害者通所授産所：８%　ほか
- 当事者のニーズ　　身体介助：２７%、社会復帰支援：２８%
- 主に支援している機関　　身体障害者更生援護施設：２０%、
  病院：１９%、身体障害者授産施設：１４%、
  小規模作業所：１４%　ほか
- 支援の調整機関　　病院：４３%、身体障害者更生援護施設：３８%　ほか
- 支援計画　　平均４名が、30分～１時間をかけ作成
- 支援の内容　　施設利用、在宅支援、就学・就労等、多岐にわたる

支援ニーズ判定票（案）・支援事例集

【今後の予定】

○　平成１５年度においては、

・　引き続き、試行的に訓練や支援等を実施することにより、さらに知見を集積する。

・　以下の現時点における課題について、さらに検討を進める

＜ 今後の課題 ＞

１．対応の体系化

受傷・発症から地域生活に至るまで、それぞれの時期における状態とニーズ等を踏まえた対応について、一連の流れとして整理する。

２．医療サービスに関する対応

- **原因疾患等の受傷・発症時（急性期）の対応**
- **回復期の対応**
- **高次脳機能障害の有無の診断**

３．福祉サービス等に関する対応

- **社会福祉施設等における対応**
- **地域における対応**
- **就業・就学**
- **権利擁護**

４．適切な情報の提供

- **国民の啓発**
- **行政、医療、福祉等の関係者への対応**

参　　考　：　高次脳機能障害支援モデル事業 参加自治体、地方拠点病院等

道府県など	拠点病院
北海道・札幌市	北海道大学医学部附属病院
宮城県	東北厚生年金病院
埼玉県	埼玉県総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ
千葉県	千葉県千葉ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ
神奈川県	神奈川県総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ
岐阜県	木沢記念病院
三重県	松坂中央総合病院 藤田保健衛生大学七栗ｻﾅﾄﾘｳﾑﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ
大阪府	大阪府立身体障害者福祉ｾﾝﾀｰ
岡山県	川崎医科大学医学部附属病院
広島県	広島県身体障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ
福岡県・北九州市・福岡市	久留米大学医学部附属病院
名古屋市	名古屋市総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ

（注１）注意障害

：　ぼんやりしていて、何かをするとミスばかりする。ふたつのことを同時にしようとすると混乱する。

（注２）遂行機能障害

：　自分で計画を立ててものごとを実行することができない。人に指示してもらわないと何もできない。いきあたりばったりの行動をする。

（注３）社会的行動障害

本中間報告書では、以下のようなものを指して社会的行動障害という。

１　依存性・退行

：　すぐに他人を頼るようなそぶりを示したり、子供っぽくなったりすること。

２　欲求コントロール低下

：　我慢ができなくて、何でも無制限に欲しがること。好きなものを食べたり、飲んだりすることばかりでなく、お金を無制限に遣ってしまうことにもみられる。

３　感情コントロール低下

：　場違いの場面で怒ったり、笑ったりすること。ひどい場合には、大した理由もなく、突然感情を爆発させて暴れることもある。

４　対人技能拙劣

：　相手の立場や気持ちを思いやることができなくなり、良い人間関係をつくることが難しいこと。

５　固執性

：　一つのものごとにこだわって、容易に変えられないこと。いつまでも同じことを続けることもある。

６　意欲・発動性の低下

：　自分では何もしようとはしないで、他人に言われないと物事ができないようなボーとした状態。

７　抑うつ

：　ゆううつな状態が続いて、何もできないでいること。良く尋ねれば、何をするかは分かっている。

など